

# まほら

2023. 11 No. 06



## 本格的な冬がやってきます！



～期末テストおつかれさま！

3年生の中には、進路が決まった人も出てきていると思いますが、まだまだ受験で忙しい人もいます



教室や自習室、自宅での勉強や面接練習の気分転換にまほら館を利用しませんか？まほら館には、小論文や面接などで役に立つあらゆるジャンルの本がそろっています！その本を手にとって、勉強できるのは、まほら館しかありません。

また、進路が決まった人も4月までは時間があります。この期間に進学先・就職先の分野の本を手に取り、入学・入職に向けた準備をしましょう。

まほら館に来て、本や新聞を広げて知識をインプットする時間をつくりませんか。



2年生はいよいよ待ちに待った修学旅行ですね！修学旅行で楽しみな事はなんですか？ディズニーランドやディズニーシーですね！

ということで、まほら館には2023年はディズニー創立100周年、そして、東京ディズニーリゾート40周年という節目の年なので、特設コーナーを作っています。修学旅行前にディズニーランドやディズニーシーのことを詳しく知りたい方、もっと楽しみたい方は是非見に来てください！！



1年生はいよいよ文理選択の季節になりましたね！文理選択はあなたの進路を決める選択になります。進路に悩む人に寄り添ってくれる本がまほら館にはたくさんあります。進路コーナーを活用したり、新書を読んだり、小説を読んだりして、文理選択の参考にしてください。

「文系?」「理系?」に迷ったら読む本  
竹内 薫著 / PHP 研究所





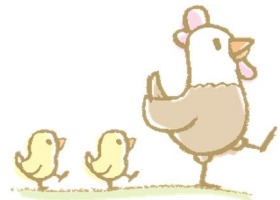
## 語彙の豊かさは、人間的な豊かさ



10月3日～10月17日まで新書旬間がありました。面白い本には出会いましたか？  
 新書は少し難しそうで手を出せないでいる人もいるのではないのでしょうか。  
 私たちは、実際に新書を読んでみて、難しいものばかりではないことを知り、この機会に小説とは違った『新書の面白さ』を知ってほしいなと思っています。

まほら館の床のテープをたどると、新書コーナーにたどり着きます。

たどっていった先で面白い本と出会うことができますように。



## ←図書部長 オススメの新書！

理系研究者の「実験メシ」 / 松尾 佑一著 (光文社)

新書と聞くと難しい本を想像しがちだが、この本はそんな固定概念をなくすような本だった。食べ物や飲み物に対して、理科を使って楽しく、楽に作ろうとする。ほとんどが普通に作る方が早くなる方法だったが。原理を考え、「こうしてみよう」「こうすればよくなるんじゃないか」と試行錯誤していく様は、実験とほぼ同じだなと感じた。



★生徒のみなさんが書いた『新書を読んだ感想』より紹介します★

親子ストレス / 汐見 稔幸著 (平凡社新書)



母親の育児不安・父親が子育てに参加をせず、全ての家事を妻に任せて自分は何もしないということで妻の限界を越え、子どもを殺してしまうという考えさせられる本でした。自分もいつかは父親になると**思います**。その時に、本から分かったことを生かしていきたいです。

この言葉！ / 森本 哲郎著 (PHP 新書)



この新書を読んで、人はどんな言葉と出会うかによって**人生観・世界観が大きく左右される**んだと実感しました。異色な名言もたくさんあり、読んでいてすごくおもしろかったです。色々な人の名言がたくさんあって、今後はこの言葉を胸に生きていこうと思いました。

16歳の教科書 / 三田 紀房著 (講談社)



新書を読む機会はなかなかないので朝自習を利用して読むことができ、貴重な経験になったと思います。勉強の捉え方、付き合い方が詳しく書いてあってとても勉強になりました。

「こう学べたら面白い」「本当はこう学ぶんだ」など感じられる1冊でした。納得いく回答に行きつくまで、長い時間がかかるということをしかりと学ぶことができました。

地球の未来はショッキング! / 高榎 堯著 (岩波ジュニア新書)



今現在、たくさんの地球問題があり、私はこの本の再生可能エネルギーについて書かれているところが印象に残りました。日本は今、原子力に頼っていることや近い未来、安定した供給を保つことが難しくなることなどたくさんの現状が知れて、**今後の自分たちの生活のために何ができるか考える機会**になりました。

インターネット・ゲーム依存症 / 岡田 尊司著 (文春新書)



この新書を読んで、スマホやゲームは脳が壊れていくのを初めて知りました。今までは、親などに注意されるばかりで無視してきましたが、この新書を読んで改めて脳が壊れているのをすごく説得力を感じました。特に怖いのが、**インターネット依存症の脳は麻薬中毒者の脳に起きていることと同じ**ことが起きていることです。これを機に、気をつけていきたいです。

看護師という生き方 / 宮子 あずさ著 (ちくまプリマー新書)



「看護師という生き方」を読んで、自分は将来看護師になりたいと思っているので、この本は、看護師を目指す人には、とても現実的だと思いました。働き始めて何年目の思いなどが書かれているので、**看護師になりたい人は、ぜひ一度読んでみると良い本**だと思いました。

心にとどく英語 / マーク・ピーターセン著 (岩波新書)



私はこの本を読んで、**ちょっとした言葉のニュアンスの違いで相手の心証が変わる**ことを改めて感じました。英語でのコミュニケーションを恐れずに挑戦しながら、言葉のニュアンスまでしっかり考えながらお互いが気持ちよく良いコミュニケーションをとれるようにしたいです。

はじめての研究レポート作成術 / 沼崎 一郎著 (岩波ジュニア新書)



今回の新書は研究レポート作成術についての本を借りました。  
今、私たちが取り組んでいる **LPの研究をまとめるための参考**にできるのではないかなと思いました。読んでみると、書く際の注意点や誰もが読みやすく書くための方法などがたくさん書かれていました。  
この本を読んで初めて知ったことがたくさんありました。もっと見やすくしていくための参考にしたいと思いました。

世界史映画教室 / 家長 知史著 (岩波ジュニア新書)



私は高2になって歴史総合を習い始めました。苦手ではないですが、別に好きというわけでもありません。なので、**楽しく人物などを覚えられる方法**ができて良かったです。だけど、私はまだ外国の映画を見たことがありません。これは世界史だけじゃなくて様々な分野で使えらると思うので、大河ドラマなどの歴史上の出来事をモチーフにした作品に触れてみようと思います。

人は見た目が9割 / 竹内 一郎著 (新潮新書)



話すことが上手であるが、信用されない人と、無口でも説得力のある人の差は、見た目で見ると書いてあって、**話すことが上手なだけでは、やっていくことのできない**ことも沢山あるのだなと思いました。私は話すことが苦手で、上手ではありません。なので**もっと見た目の方に気がつかって**いこうと思いました。

折れない心を育てる 自画自賛力 / 原田 隆史著

(メディアファクトリー新書)



自画自賛はとても良いことだと思いました。伸びていく人は、みんな自画自賛力があります。それは、**自分の能力に自信を持てる人は、「こうなりたい」という目標ができ、ぐんぐん成長**していきます。自信が大事なので、自信を持って生きていきたいと思いました。つらいことがあっても、自分に**ポジティブな言葉**をかけて生きていきます。

新書の感想の紹介は、来月号まで続きます。

みんなの感想を読んで、気になった新書があれば、遠慮なくまほら館で聞いてみてください。また、**貸出中の場合には予約もできます。**

